

Contents

- ① 学長からのメッセージ
- ② 大学概要
- ③ 入試概要
- ④ キャンパスツアー
- ⑤ 看護技術体験演習
- ⑥ 模擬講義
- ⑦ 学生インタビュー



ここからアクセス!



昨年に引き続き、今年度もWEBオープンキャンパスを実施しました。昨年よりも動画数を増やし、「キャンパスツアー」や「模擬講義」等のコンテンツも加え、本学の魅力を存分にアピールできる内容となっています。10月末に「看護技術体験演習」の動画も追加しました。

今年度の対面型オープンキャンパスについては、現下の新型コロナウイルス感染症の拡大状況に鑑み、残念ながら中止となりましたが、WEBオープンキャンパスを昨年に引き続き開催し、本学の広報活動を行っていきます。



トークライブ



Talk Live



本学に興味がある方、受験を考えている方を対象として看護大生によるトークライブを2021年10月17日(日)<11時-12時><13時-14時>の2回行いました。

「新潟県立看護大学にしかない魅力は?」「看護実習はどんな感じ?」「コロナ禍での看護実習はどのように行われているのか」等、ホームページだけでは分からない「看護大学の実際」を直接知ることができる有意義なイベントとなりました。

編集後記

COVID-19への感染対策が長期に及んでいますが、学生たちは感染予防を継続しながら、対面授業や臨地実習において、患者さん、指導者の方々、友人など、繋がりが広がっていることを実感しているようです。制限を強いられても人との繋がりは広がっていくと、希望を持ち前進していることをポルティコを通して知っていただければ幸いです。 石岡、大倉、山岸、星野

発行日:2021年12月吉日

# PORTICO



- 新副学長 平澤 則子あいさつ
- 新学部長 大久保 明子あいさつ
- 新型コロナウイルスワクチン接種の実施報告 (p2)
- 看護大ニュース「車椅子の寄付」令和3年度 継燈式を実施しました (p3)
- 看護学実習の報告
- 科学研究費の採択状況 (p4)

- 研究室訪問
- 「人間環境科学 情報科学教授 中村義実先生」(p5)
- 新任教職員をご紹介します!
- 研究推進委員会 活動報告 (p6)
- WEBオープンキャンパス (p8)



## 新副学長 新学部長 ごあいさつ



新副学長 平澤 則子

この4月1日付で副学長に就任しました平澤則子と申します。どうぞよろしくお願いたします。私は、保健師として10数年働いた後に看護教育の道へ進みました。新潟県立看護短期大学、新潟県立看護大学と合わせて教育歴は25年になります。

保健師時代は、まだ制度化されていない難病者の在宅療養支援、認知症高齢者の介護教室や地域で預かる場づくりなどに奮闘していました。その後、「介護保険法」、「難病患者に対する医療等に関する法律」、「認知症施策推進大綱」などが制定され、難病や認知症の方への医療福祉サービスは格段に整いました。これらの創設を後押ししたのは、患者と家族の苦しみを「なんとかしたい」という保健医療福祉従事者の問題意識、患者会活動などの社会的な運動でした。法制度の創設には時間がかかります。しかし、必要な新しいケアやサービスは制度、政策に乗らないとすべての人には届きません。社会における健康問題に対し、看護者として発信し政策立案に関与する力を、学生時代に学ぶことはとても重要です。

本学4年生の「看護行政論」の授業では、学生が新潟県医師・看護職員確保対策課看護職員確保・育成係長に施策提案を行う機会を設けています。今年度は、係長の「看護職の確保・人材育成や訪問看護強化等への参考にしたい」との講評を受け、学生は「看護職の責務と施策化の過程を学ぶことができた」と発言していました。教師冥利に尽きる瞬間です。



新学部長 大久保 明子

令和3年4月より看護学部長を拝命いたしました大久保明子と申します。大学の教育や運営に係わる重要な役割をお引き受けすることになり、非常に身が引き締まる思いであります。私は新潟県立病院での臨床経験を経て、前身の新潟県立看護短期大学の開学時に小児看護学領域の助手として着任し、現在の看護大学に至るまで25年間の教員生活をこの本学で過ごしてまいりました。今では、大勢の卒業生が看護師、保健師、助産師、養護教諭等でご活躍されていることや、本学の大学院生として入学されて再会し、教員として共に教育・研究活動に携わることができて大変嬉しく思っております。

私は学部長として、学生の皆さんが主体的に学べるような学習環境を整え、本学で学生生活を過ごしてよかったと思えるような大学づくりを目指したいと考えております。現在、保健師助産師看護師学校指定規則の改正を受けて、令和4年度入学生から導入される新しいカリキュラムの申請を進めており、社会の変化や多様なニーズに応え得る看護職者の育成に努めてまいります。

本学では7月に希望する学生、教職員の新型コロナワクチンの接種が終わりましたが、まだまだ予断を許さない状況です。新しい生活様式は学習環境に少なからず制約を伴いますが、その反面、より効率的な教育方法が導入され従来の方法を見直し改善する機会にもなりました。逆境を嘆くことなく、いまこの瞬間を受け入れながら、ともに前進してまいりましょう。

## 本学でも、新型コロナウイルス ワクチン接種を行いました!

本学を会場とし、1回目を7月7・8日、2回目を28・29日に、学生・教職員の希望者全員に接種を行いました。

ワクチン接種後も今までと同様に、感染予防に取り組んでいます。



## 看護大 ニュース

## 「古い車いすを修理して、福祉施設に寄付をする準備」を始めました

この度、本学の基礎看護実習室の車いすを新調することになりました。それに伴い、これまで使用していた古い車いすを廃棄することになりました。車いすは、主に看護学演習の授業で代々の学生が、大切に受け継いで使用してきました。まだ綺麗な状態のものが多く、このまま処分するのはもったいないと考え、学生ボランティアを募り福祉施設に寄付を行うことにしました。しかしながら、車いすは購入から20年近く経っていることもあり、点検整備作業が必要でした。そこで、車いすメーカーの担当者がボランティアで車いすの基礎知識と修理および整備について学生ボランティア(2年生が中心)にご教授くださいました。また、すでに国内外に寄付実績のあるNPO飛んでけ!車いすの会(北海道札幌市)の作成した整備手帳や動画なども参考に少しずつ修理を進めています。学生の手で、きれいに安全に整備された車いすは、来年度、希望する地域の福祉施設に送り出せるように準備を進めていくことにしています(車いすは全部で14台)。まずは車いすの整備項目をみんなで学び、自分たちでチェックをして、修理が必要な部品の洗い出しから始めています。今後、部品交換が必要なものが数台あり、部品の調達についてが今後の課題です。



## 参加学生の感想 2年生

今回の講座では、実際に車いすに触れながら修理方法を教えていただきました。説明がとても分かりやすく、修理の仕方をほとんど知らない私たちでも理解することができました。以前、学生だけで修理を行いました。私たちがだけではわからないことが多くあり、修理ができなかったところが残っています。安全な車いすを福祉施設へ届けるために、この講座で学んだことを活かして残りの修理を頑張りたいと思います。

## 令和3年度 けいとう 継燈式を実施しました

2年生  
継燈式実行委員長



けいとう  
継燈式とは  
臨床実習を行う前に先輩から「看護の灯」を受け継ぎ、看護の道への決意を表明するイベントです。  
学生主体で企画・運営しています。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、開催することができなかった継燈式ですが、今年度は学年でアンケートを取り、感染対策を徹底し、形式を変更することで開催することができました。具体的な対策としてはアルコール消毒や換気、座席を離して着席する、来賓をお呼びしないことや出席される教員を減らすことなどを行いました。中でも大きく変更した点は、今まで一人一人が先輩方から看護の灯を受け継ぐ継燈の儀で、灯を受け取った後に学年全員で声を揃え述べていた決意表明を、今年度は代表者3名で行ったことです。ぎりぎりまで全員で行えるように試行錯誤しましたが、感染対策の観点から代表者3名で行うこととなりました。看護師として今後歩んでいくための決意を固

めるための大きな儀式なので、全員で行うことができなかったのは少し残念ですが、代表者3名で学年全体の思いを乗せて継燈の儀に臨みました。式が終わった後、同級生や先生方からお褒めの言葉をかけていただき、継燈式実行委員全員で行ってきた活動が報われたなど実感することができました。

昨年度から多くの行事が制限され、1年時には入学式なども行うことができませんでしたが、今回の継燈式は学生主体で感染対策を考えて実行することができました。その点で学年として成長することができたのではないかと考えています。継燈式に携わってくださったすべての皆さま、本当にありがとうございました。

## 看護学実習の報告

### 基礎看護学実習Ⅱの学び



2年生

基礎看護学実習Ⅱでは、医療チーム実習と病棟実習を行いました。医療チーム実習では、看護師の臨床講義と病院見学から医療チームの役割、連携について学びました。医療チームの中で、看護師は多職種連携の調整や患者に一番身近な存在として、患者・家族と医療機関とをつなぐ橋渡し役といった重要な役割を担っていること、また、チームの中心は患者であることを基本とし、各職種が知識や技術を補いながら1つの目標に向かって相互に作用することで、医療チームの円滑な運営と質の良い医療の提供が実現できていることがわかりました。

病棟実習では初めて患者さんを受け持ち、5日間の中で情報の分析から看護援助の立案、実施を行い、看護における双方向の重要性を感じました。病態や検査値といった日々変化する膨大な情報をまとめることに苦戦しましたが、患者さんと実際に接して、思いを共有できたことは学内ではできない貴重な経験でした。援助を実施する時は、患者さんが安心して受けられるよう具体的な根拠と方法を明確に提示する必要性や、退院後の生活を見据えた援助が重要であることを、体験を通じ学びました。

今回の実習で得た知識や技術、課題を糧として自己研鑽に努めていきたいです。最後に、コロナ禍の非常事態でありながら私たち学生をチームの一員として受け入れ、実習環境を整えてくださった医療関係者の方々に深く感謝いたします。

### 老年看護学実習での学び



3年生

私は老年看護学実習において、患者さんの個性を考慮したケアが大切であると学びました。他の領域と比べて、高齢者の看護では加齢による身体機能の変化を考慮することが必要です。実習の始めはなかなか会話が続き、コミュニケーションに苦戦しました。患者さんの強みは何か、その強みをどのように生かすかを考え、コミュニケーションをとる時はユマニチュードを用いてアイコンタクトやタッチングを意識しました。その結果、患者さんから話しかけてくださるようになり、会話中の笑顔も増えました。ご自分の経験についても話して下さるようになり、患者さんの大切にしていることや信念を知ること、より深く患者さんについて理解することができたと思います。そして、患者さんに寄り添った看護を提供することにも繋がりました。

今回の実習は領域別実習最初の実習でした。これまでの実習では、新型コロナウイルス感染症の影響で患者さんを受け持つ経験がなかったことから、初めて患者さんを受け持つため、患者さんのニーズに沿った看護を提供できるか大きな不安がありました。しかし、先生方や指導者さんからの助言、仲間のサポートを受けることで、看護を提供することができ、たくさんの学びを得ることができました。このような状況の中で、実習に協力して下さった病院・福祉施設の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。今回の実習での学びを生かして今後の実習も取り組んでいきます。

### 科学研究費の採択状況

コロナ禍ではありますが、研究活動を継続しています。

新規・継続	研究者氏名	研究種目別	研究課題名
新規	平澤 則子	基盤研究 (C)	難病患者が生活困窮に陥らないための伴走型就労・孤立予防チームの構築に関する研究
	酒井 禎子		地方都市の高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデルの臨床評価
	坂田 智佳子		在宅療養への移行をつなぐ終末期がん患者の地域包括型看護ケアプログラム構築
	徐 淑子	挑戦的研究 (萌芽)	支援プログラムの「しさい」を下げる：薬物使用者の求助行動とサービスアクセスの研究
継続	舟島 なをみ	基盤研究 (B)	医療事故防止のための「看護職包括型患者安全教育推進システム」の拡充と普及
	境原 三津夫		小児病院におけるファシリテッド導入促進のために一細菌学的視点からみた安全性一
	岡村 典子		感情を的確にマネジメントする為のスキル習得に向けた看護管理者向けプログラムの構築
	小野 幸子		看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築
	高柳 智子		回復期脳卒中患者の病棟生活 21 時間の移乗を支える生活者目線の看護支援モデルの開発
	高林 知佳子		主観的幸福感をトリガーとした家族介護者における介護予防行動促進モデルの構築
	渡辺 弘之		ベトナムのハンセン病元患者の子どもが持つ「傷つきやすさ」とエンパワーメント支援
	永吉 雅人		強化学習によるメンバーシップ向上に寄与する共創的ナース・スケジューリングシステム
	河原畑 尚美		看護基礎教育における高齢者のケア倫理教育プログラムの開発
	樺澤 三奈子		補助化学療法を受ける肺がん患者の倦怠感セルフマネジメント促進プログラムの臨床評価
	葛城 美徳	アグリソームによるαシヌクレインのプリオン様増殖抑制機構	
	谷本 千恵	患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発	
	徐 淑子	ハーム・リダクションと薬物依存者への社会的ケア：東アジアへの影響、移入、展開	
	石原 千晶	分子標的薬治療による皮膚障害に対する生活支援マネジメントモデルの開発	
	野口 裕子	乳幼児を持つ養育者の防災行動教育プログラムの開発	
	大口 洋子	豪雪地帯に暮らす後期高齢者のストレスを活かした自助・互助のありかた	
	舟島 なをみ	挑戦的研究 (萌芽)	問題診断克服型 FD モデルの開発—教員の研究指導能力向上を目指して
	天谷 まり子	若手研究 B	妊娠糖尿病 (GDM) 妊婦における食事療法の適応状態に関する評価尺度の開発
	酒井 禎子	若手研究	化学放射線療法を行う高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデル構築
	佐々木 三和		地域で境界性パーソナリティ障害者を支えるための訪問看護師への支援プログラムの開発
船山 健二	刑余者のヘルスケアニーズ		
野澤 祥子	成人先天性心疾患患者のための相互補完型の教育を応用した就労支援モデルの開発		

## 研究室訪問

人間環境科学 情報科学教授

中村義実先生

今回は、やさしいオーラと  
冷静沈着なオーラを  
身にまとう中村先生の  
素顔に迫りたいと思います！



### 本学で看護学生に英語教育をすることについての思いをお聞かせください

本学へ来て6年目になりました。看護学生に対する英語教育は初めてで、最初は戸惑いもありましたが、「何が一番、看護学生にとって将来的に有意義になるのか」を考え続けてきました。そして最近感じるのは、看護学部で英語を教えることは、理想的な英語教育の環境に近いということです。看護学生は勤勉さがあり、将来の目的が非常にクリアで目的に合わせた教材を選ぶことで、より効果的に学習が可能です。さらに、看護には国境がないため、英語に対する未来志向のモチベーションが高いです。また患者さんとのコミュニケーションの時に、直感で心と心を通じるためには、何が必要かを意識することも強みだと思います。このように様々なプラスの要件を兼ね備える看護学生への英語教育は、全体のモデルにもなり得ると考えています。昨年、実習中の受け持ち患者さん(外国人)との英語でのコミュニケーションに困難を感じた学生が相談にきました。その時に、難しい病名の英語を伝えるよりも、簡単な英語でどんな状況なのか質問をしたらよいことをアドバイスし、一緒に質問を考えました。その後、学生たちは英語の質問のパンフレットを手作りし、実際に実習で活用したところ、患者さんに非常に喜ばれたということがありました。看護で英語を使おうとすると、難しい単語を覚えなくてはいけないと捉えがちですが、そうではなく、まず大事なのは基本的なコミュニケーションだということを再確認し、看護の中で英語をしっかり活用していける力が求められると感じました。

### 最後に中村先生のリフレッシュ方法を教えてください

子どもが小さかったころ、野球や水泳、山登り、サッカーなど様々な遊びを一緒にしていました。中でも水泳は、一人でもできる運動だったので、今でも続けています。週に5日ほどは、ジムに泳ぎに行っています。泳ぐことで疲れが取れ、リフレッシュできるだけでなく、そこで血圧や体重を測るので、自然と健康管理もできてしまいます。体力診断を受けると、判定がよくなっていて、毎年の楽しみになっています。水泳は健康管理、体力維持のためにも、ぜひ今後も続けていきたいと思っています。

1

### 英語教育に携わるきっかけや経緯を教えてください

英語は「自分を変えてくれる可能性のあるもの」と思ったことがきっかけです。高校生の時に、日本社会の中にこどまっていることを窮屈に感じることもありましたが、いずれは世界を見てみたい気持ちがあり、英語を身に付けておくことで世界が広がるのではないかと考えていました。そこで、大学は教養学部を選び、2年生のときに「アメリカ研究」のコースに進みました。大学で、まずは英語を一生懸命に勉強し、それと同時にアメリカの文化も学びました。3年生のときに20日間カリフォルニアにホームステイに行きました。そこで、たくさんの人々のご縁の中、日本の文化では考えられないような出来事が次々に起こり、多くの衝撃を受けました。そして、大学卒業後は、日本で高校教員として英語を教えていましたが、留学したい思いが募り、30歳のときにアメリカの大学院に進学しました。修士課程に通いながら、現地の人々に日本語を教える仕事をし、5年半をアメリカで過ごしました。日本へ戻ってからは、敬和学園大学で教員として18年間を過ごしたのですが、その後、地元(上越市高田出身)のご縁に引き寄せられるように本学の教員となりました。



2

3

### 現在取り組まれている研究テーマについて教えてください

看護学生への英語教育方法に関して、これまで本学で取り組んできた教育の工夫と学生の反応の変化をまとめています。いかに受験勉強のための英語学習から脱却し、親しみ・楽しさを感じられる使える英語の学習へと移行できるかが課題でした。英字新聞の医療関連の記事や、海外医療ドラマや、デニス英語(英字新聞掲載の一コマ漫画)も取り入れ、英語を身近に感じてもらうことから始め、あとは実際に医療現場ですぐに活用できる英語を効率よく学習することで、ポジティブな意識に変化させていきました。デニス英語シリーズ(中村先生の著書)に関しては、今度3冊目の本が出来上がります。自由奔放で予測不能なデニス君の言い分を想像しながら、一コマ漫画のセリフを解釈していきます。答えは1つではなく、いろんな正解や解釈があつていいことを伝えながら、学生に翻訳にチャレンジしてもらおうと、「すごい!」と思えるような解釈がたくさん出てきます。3冊目の著書には、そんな素敵な学生の発想も取り入れながら、今執筆をしています。

4

いつも広い視野で物事を捉え、いろんな方面にアンテナを張りながら、研究にも教育にも水泳にも目の前の課題に全力で取り組まれている、そんな中村先生の素敵な一面が伺えました。そして、やさしさと冷静さは豊富な人生経験からのものだと感じました!中村先生、どうもありがとうございました。

## 新任教職員をご紹介します！



基礎看護学領域  
(看護管理学)  
教授  
伊豆上 智子

はじめまして。4月から本学に着任しました伊豆上智子です。

私は看護師として病棟に勤務した後、大学院に進学して看護管理学を専攻し、修了後は大学病院での看護管理業務に従事しながら、看護管理学分野の研究活動に参加しました。勤務していた病院で初めて電子カルテシステムを導入する業務を担当した頃、国外の健康情報学大学院の研究者と出会い、健康情報学分野の知見を看護実践に活用することにも関心をもつようになりました。ここ数年は、看護管理学分野と健康情報学分野の教育や研究に取り組んでいます。

看護管理学は、看護の対象への看護ケアや看護サービスを作り出す看護職を支えるしくみづくりにかかわっています。本学の授業科目や看護管理の実務を担う方々との研修を通じて出会う皆さまとともに、看護職一人ひとりが個性を伸ばしながら力を発揮し、人々の健康を支援する社会に貢献していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



地域生活看護学領域  
(精神看護学)  
准教授  
谷本 千恵

はじめまして。4月に着任しました谷本千恵と申します。出身は石川県金沢市で、前職の石川県立看護大学には20年間勤務しておりました。

心のケアに対する社会のニーズの高まりに伴い精神看護学の扱う領域も精神科看護から広く人々の心の問題へと拡大してきました。しかし精神疾患の原因はまだまだ未解明であり、社会環境も人々の心の健康に影響を及ぼします。時代と共に病名が変わることもあり、それゆえ病名にとらわれすぎずその人と向き合うことが重要です。実習では、学生さんが医療者が気づけなかったような患者さんの健康的な面に気づくことで、患者さんが元気になっていく場面を何度も経験しました。精神看護は難しいですがやりがいのある領域です。今後は、講義や実習、研究等を通して長期入院等の精神医療の課題にも取り組んでいきたいと思っています。

皆様のご指導をいただきながら早くお役に立てるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



地域生活看護学領域  
(精神看護学)  
准教授  
佐々木 三和

4月より精神看護学の教員として着任しました。佐々木三和と申します。

わたしは「三人目(三女です)の平和な子」という意味で、三和(みわ)」と名付けられました。幼い頃から美しい方の「美和」でないことを恨めしく感じてきました(笑)…が、上越に移り住み、農村の美しい景色に遺跡や古墳、情緒ある古民家や美味しい食物など、魅力あふれる「三和区」に親しみ、癒されて、自分の名前を好きになりました。

さて、わたしの専門は精神看護学ですが、臨床では、特に摂食障害やパーソナリティ障害者とそのご家族へのケアに関心を抱き、実践してきました。研究関心の中心には、「人間とは何か」という問いが常に内包されてきたように思います。

わたしは、これまでの実践経験や教育・研究活動を活かしながら、看護が人間の根源的な問題を問いつけている深い学問であることを学生に伝え、共に学んでいきたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。



自然科学領域  
(生物・医学)  
准教授  
葛城 美徳

4月より本学に着任いたしました葛城美徳と申します。大分県の出身で、福岡、新潟で概ね人生の1/3ずつを過ごしてきました。1・2年生を対象とした臨床栄養学・臨床生化学・臨床薬理学・感染学の講義や基礎ゼミナール、ふれあい実習を担当します。どうぞよろしくお願いいたします。昨年度までは新潟大学医学部第一生化学教室やウイルス学教室で助教を勤めておりました。大学で研究生活を始めて以来、発生物学や細胞周期、放射線発がん、オートファジーやパーキンソン病などについて実験や研究を行ってきました。これまで、医学部生に対する講義や実習を行ってきましたが、本学の学生の皆さんは、医学生以上にひたむきに学習に取り組んでいる印象を受けました。まだまだ力不足ではありますが、これまでに得た経験や知識を最大限活かして、学生の皆さんの夢の実現や本学のさらなる発展に少しでも貢献できるよう、努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



地域生活看護学領域  
(地域看護学)  
講師  
関 睦美

皆様はじめまして。地域看護学の講師として着任しました関睦美と申します。よろしくお願ひ致します。私の出身は福井県です。臨床では脳外科や小児科等で勤務してきました。プライベートでは、医療的ケア児の母です。医療的ケア児の子育ては、常に医療が必要なため、仕事から帰宅しても在宅看護と24時間365日看護と離れる時がない生活でした。わが子に疾患や障がいがあっても、家族の皆が当たり前のように生活が送れるように看護師として母としても担っていました。そのような経験を、看護を志す学生への教育に役立てようと教育の道を歩んできました。地域で生活する人の中には、看護を必要とする高齢者や障がい児・者が多く存在します。学生の皆さんには、在宅看護での授業や実習を通して、命・生活・その人らしさを支える看護を実践することでの喜びを感じてもらい、将来、一人でも多くの学生が地域で貢献する看護職となるよう努めていきたいと考えております。



臨床看護学領域  
(母性・助産看護学)  
助教  
八巻 ちひろ

4月に着任致しました母性・助産看護学の八巻です。主に、母性看護学や助産学の講義や演習、実習を担当しており、母性看護学に関する専門ゼミの指導にも携わせていただいております。また、現在、他大学の大学院生として月経随伴症状に対する保健行動に関する研究を行っており、教員と大学院生の2刀流の生活を送っております。

教員としては新人ですが、同領域の先生方をはじめ、周りの先生方に助けていただきながら、日々「学生ファースト」を目標として業務に当たっております。

少しでも学生の知識・技術を養い、看護観を充実させていくお手伝いができれば幸いです。学生の皆さん、私も大学4年間の生活を経験しましたが、大学生活の4年間はおもいっきり遊び、勉強ができる時期だと思います。現在、コロナ禍でなかなか思うようにいかず、我慢を強いられる状況ですが、今しかない大学生活を楽しんで下さい。そして、看護職の仲間となる日を楽しみにしております。



基礎看護学領域  
(基礎看護学)  
助手  
山田 彩乃

はじめまして。この4月より基礎看護学領域の助手として配属となりました山田彩乃と申します。私は、本学の第7期生として卒業後、新潟県立中央病院に配属となり、9年間勤務いたしました。臨床では、胸部外科・内科と整形外科の病棟で看護師として携わっておりました。

私は、ここ数年で新人教育や後輩育成に携わる機会が多くなり、看護教育学、特に看護継続教育への関心が強くなりました。そして、本学の学生が実習に来る姿を懐かしく思うと共に、学生が学ぶカリキュラムが自分の学生の時とどう違うのか興味を持つようになりました。4月から本学の教員として携わる機会をいただき、日々新しい学びや学生と共に学ぶ楽しさを感じております。

至らない部分が多々ありますが、一日でも早く業務に慣れ、教職員の皆様の力になりたいと考えている所存です。併せて、学生と一緒に学び、成長していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



臨床看護学領域  
(母性・助産看護学)  
助手  
五十畑 麻奈美

母性看護学・助産学の助手として着任致しました。五十畑麻奈美と申します。私は本学の第4期卒業生です。10数年前、同じ志を持った仲間とともに切磋琢磨した4年間は何にも変えることのできない思い出であり、かつての学び舎において勤務できる事を大変嬉しく思っております。

私は本学を卒業後、新潟県内外の病院で10年間助産師として勤務しました。私は、良くも悪くも「お産がつく」助産師でしたので、たくさんのお母さま方と赤ちゃんとの出会いがありました。一生に幾度とない「出産」という家族のスタートに関わることのできる職務にとてもやりがいを感じていました。その中で、臨床指導にも携わっていました。臨床指導における視点とは違った角度から学生さんたちと関わることを通して、学ぶことが多々あります。教員としては未熟で至らぬ点もありますが、諸先生方からのご指導を賜りながら自己研鑽に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

## 事務局



藤井 理沙

この春から再び勤務することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。



吉田 弘子

6月から教務係に着任しました。皆さんの充実した学生生活をサポートするべく、汗をかきかき頑張ります！

事務局職員総勢23名で学生の皆さんをサポートできるように全力で頑張ります！何かお困りごとがありましたら、気軽に事務局までお声掛けください！

## 研究推進委員会活動報告

研究推進委員会  
葛城 美徳

### R.P.C. CAFÉ

夏休み期間中の8月4日(水)に、助手・助教の職にある教員を対象として、看護研究を企画・遂行するうえで困っていることや疑問に思うことに気づき、それらの解決先を見出すための機会を提供することを目的としたResearch Proposal Consultation (R.P.C. CAFÉ)を実施いたしました。本年度は3名の先生方にご参加いただきました。

まず、会の前半では、参加者にグループワークとして看護研究を行ううえでの困り事・疑問について列挙してもらい、それらを分類化しました。会の後半では、研究推進委員のメンバーが自らの考えや経験を交えつつ、参加者の困りごとや疑問に対する解決策の提案やアドバイスをいたしました。参加者数は、昨年ほど多くありませんでしたが、時間が足りなくなるほど活発なディスカッションが行われました。事後アンケートの結果からも、参加いただいた先生方の今後の研究活動の一助になったことがうかがえ、有意義な会であったかと思います。

本年度は新型コロナウイルス感染対策のため、飲食なし・マスク&フェイスガード着用での実施となりましたが、来年はR.P.C. CAFÉという呼称のとおり、リラックスした環境でお茶やお菓子を囲んでざくばらんに意見交換ができるといいなと思います。



R.P.C. CAFÉの様子

### 新潟県立看護大学内共同研究助成

本学教員の研究活動活性化を目的とする本学独自の競争的研究資金制度です。令和2年度は以下の2件が採択され、令和3年11月24日の成果報告会にて研究成果が発表されました。

研究代表者	研究課題名
安達 寛人	双極性障害を有する者の家族が抱える困難と対処の実践
小林 綾子	新潟県民の食塩摂取量と簡易型自記式食事歴質問票により把握される推定食塩摂取量との関連-腎症進行予防指導のための質問票の活用に向けて-